

製品名: VASP (リン酸化Ser157) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05608**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46+50kDa

抗原情報

遺伝子名	VASP
別名	VASP; Vasodilator-stimulated phosphoprotein; VASP
遺伝子 ID	7408.0
SwissProt ID	P50552
免疫原	抗血清は、Ser157 のリン酸化部位周辺のヒト VASP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 124-173

背景

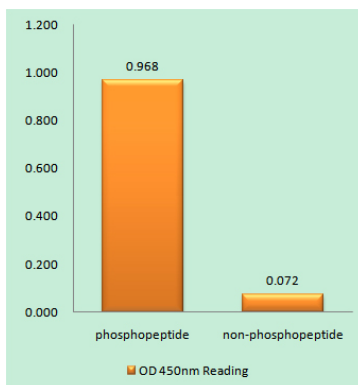
血管拡張刺激リン酸化タンパク質 (VASP) は、Ena-VASP タンパク質ファミリーのメンバーです。Ena-VASP ファミリーのメンバー

は、E/DFPPPPXD/Eモチーフを含むタンパク質に結合し、Ena-VASPタンパク質を接着斑に誘導するEHV1 N末端ドメインを有します。タンパク質の中央領域には、SH3およびWWドメインを含むタンパク質に結合するプロリンリッチドメインがあります。C末端のEVH2ドメインは四量体形成を媒介し、GアクチンとFアクチンの両方に結合します。VASPはフィラメント状アクチンの形成に関与しており、細胞接着と運動において広範な役割を果たしていると考えられます。VASPは、インテグリンと細胞外マトリックスの相互作用を制御する細胞内シグナル伝達経路にも関与している可能性があります。VASPは、環状ヌクレオチド依存性キナーゼPKAおよびPKGによって制御されます。[RefSeq提供、2008年7月]、ドメイン: EVH2ドメインは3つの領域で構成されています。ブロックAは、Gアクチン結合に必要なチモシン様ドメインです。このブロック内のKLKRモチーフは、Gアクチン結合とアクチン重合に不可欠です。ブロックBはFアクチン結合と細胞内局在に、ブロックCは四量体化に必要です。ドメイン: WH1ドメインはXIRP1との相互作用を媒介します。機能: Ena/VASPタンパク質は、細胞骨格リモデリングと細胞極性に依存するさまざまなプロセスに関与するアクチン関連タンパク質であり、軸索誘導、遊走細胞におけるラメリポディアおよびフィロポディアのダイナミクスなどです。VASPはアクチン核形成を促進し、キャッピングタンパク質の存在下でアクチン重合速度を高めます。血小板中のリステリア・モノサイトゲネスのアクチン活性に関与する。PTM: 血小板中のcAMP依存性プロテインキナーゼ(PKA)およびcGMP依存性プロテインキナーゼ(PKG)の主要基質。PKAの優先部位はSer-157、PKGの優先部位はSer-239である。ADP活性化血小板では、PKAまたはPKGによるSer-157のリン酸化がフィブリノーゲン受容体阻害を引き起こす。Thr-278のリン酸化には、Ser-157およびSer-239のリン酸化が先行する必要がある。ホルボールエステル(PMA)刺激にตอบสนองして、PKC/PRKCAによってリン酸化される。トロンビンに反応して、PKCとROCK1の両方によってリン酸化されます。類似性:Ena/VASPファミリーに属します。類似性:1つのWH1ドメインを含みます。細胞内局在:MRLファミリーのメンバーを含むいくつかのタンパク質との相互作用を介して、ストレスファイバーと接着斑を標的とします。突出したラメリポディアと糸状仮足の先端の細胞膜に局在します。トロンビンまたはPMAによる刺激によっても、VASPは接着斑に移行します。サブユニット:ホモ四量体。PFN1、PFN2、LPP、ACTN1、およびACTG1と相互作用します。EVH1を介して、ZYXのProに富む領域と相互作用します。この相互作用は、接着斑への標的化と、細胞の頂端表面でのアクチンに富む構造の形成に重要です。EVH1ドメインを介して、リステリアモノサイトゲネスactAのProに富むドメインと相互作用します。APBB1IPと相互作用する。プロリンリッチドメインを介してDNMBPのC末端SH3ドメインと相互作用する。組織特異性:血小板で高発現する。、

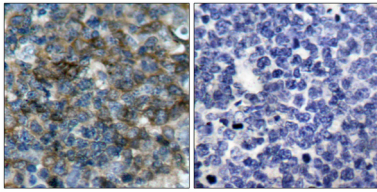
研究分野

接着斑;FcガンマRを介した貪食;白血球の内皮透過性遊走;

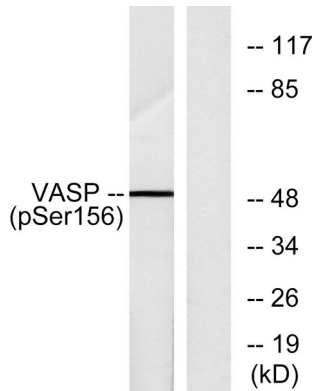
画像データ



VASP (リン酸化 Ser157) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



VASP (リン酸化 Ser157) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40 μ M、30分処理した NIH/3T3 細胞のライセートを VASP (リン酸化 Ser157) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 VASP (S157) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析